

山田米の歴史と関わりのある人物



1 山田米の由来

熊野町は古くから山田郷と呼ばれていました。

1601(慶長6)年福島正則が城主の時、庄屋・組頭を置き山田村になりました。

1688～1704年(元禄)頃、中山田村の庄屋柳井六兵衛が「品質の良い山田米を少しでも多く取れないものか」と考え、甲谷の方からの水をせき止め、原井出を造りました。



【福島正則】 * 福山城、福山市にゆかりのある武将です。

福島正則は、愛知県で生まれました。正則は、秀吉に仕えていましたが、その後関ヶ原の戦いで東軍(徳川)につきました。その後広島城城主となり、関ヶ原合戦後も徳川家康に仕えていながら豊臣家臣として行動しましたが、慶長20年豊臣家が滅び終わりました。1624年8月26日に死去。

【水野勝成】 * 福山城、福山市にゆかりのある武将です。

水野勝成は、愛知県で生まれました。

勝成は戦では先陣を切って突撃して活躍しました。

しかし、父親の家臣を斬ってしまい父親の怒りを買って浪人になってしまいました。

その後、関ヶ原の戦いで家康に付き良い活躍をして刈谷【愛知】3万石になりました。

そして福山に移されました。1651年死去。

2 米作りの始まり

1875(明治8)年、三村が合併して、熊ヶ峰にあった熊野神社に因み「熊野村」と改名しました。その後は豊かな自然と、農業の村独自の親密な人間関係にあふれた一体感のある地域として発展してきました。

ですが、実は今から1800年くらい前頃から熊野の地には人が集落を作り、谷間の湿地に田を作り、農耕をしていたと推測されています。

山田米は、この熊野の地で遠い昔から米作りが行われていたのです。